

津山恵子の NY発 グローバル随想

第6回

シリコンバレーに「陰」



イラスト・題字：長峯亜里

フェイスブックを離れる友人たち

フェイスブック離れが目立ってきている。

フェイスブックが8700万人もの個人情報を第三者に使わせていた情報漏洩問題が今年3月、明らかになったのがきっかけだ。筆者の友人で、特にミレニアル世代は、フェイスブックのアカウントをあっさり削除した。“#DeleteFacebook”と呼ばれる運動に応じて、簡単にアカウントを削除するか、あるいはアカウントを開いたままで何もアップロードしないで様子をみている。

筆者は6月4日、バースデー・パーティを開いた。フェイスブックでイベントページをつくり、フェイスブックを離れた友人には、メールやショート・メッセージで個別に案内を送ったが、それでも漏れがあった。「インスタグラムで案内



誕生日の様子。両端の友人は、フェイスブックを使っていない。

を送って欲しかった」と、バースデー・パーティがあることを知らなかった友人から言われた。

ゆがめられた民主主義の根幹

漏洩問題のスクープ記事は、漏洩した個人情報が、ドナルド・トランプ氏を大統領にするために使われたとする内部告発者の驚くべき証言を報じた。

英紙『ガーディアン』に掲載された内部告発者クリストファー・ワイリー氏(24)の証言ビデオは、2016年の米大統領選挙が、フェイスブックなどデジタルプラットフォームを使い、いかにしてゆがめられたかが詳細に語られている。ビデオでワイリー氏は淡々とこう語る。

「(フェイスブックのデータを基礎として)あなたが、どんな情報を信じやすく、どんな文脈、話題、コンテンツに反応しやすく、つまり、どんな情報に騙されやすく、何回そういうことを考えてもらったらいいいのか、そうして、ある事柄についての考え方を変えていくのです」。

髪の毛をショッキングピンクに染め、鼻にリングをしたミレニアルのワイリー氏の証言は、同じ世代のミレニアルには、その上の世代よりも強く響いただろう。生まれた時から、インターネットに常時接続した生活を送ってきた彼らは、オンラインの危険性はある程度許容して暮らしてい